

新日本婦人の会は、原水協の加盟団体で、女性の要求実現と平和のために、全国の地域・職場で活動しています。15万人の会員をもち、53年の歴史があります。私は、平和部長と若い世代を担当しています。

★日本原水協は、このNPT再検討会議へむけて2011年から、核兵器全面禁止の交渉開始を求める署名にとりくみ、600万を超える署名をもって、1000人を超える代表が明日のNY行動に参加します。

この4年間日本は激動期にあり、その中で集めてきた署名です。

その1つは、2011年3月11日に起きた東日本大震災・原発事故です。あらゆることを根底から覆すできごとでした。目の前の命をどう守るのか、一人ひとりが、考え、行動する日々が始まりました。2つ目は貧困格差の拡大、3つ目は、極右の安倍政権の誕生です。日本をアメリカの戦争に参加する国へと作り変えようとしています。

新婦人は、(暮らしや平和を求める)この運動合わせて核署名をひろげ、152万人分を集めています。「原発ゼロと核兵器」「秘密保護法、集団的自衛権と核兵器」「増税ストップと核兵器」「子どもの医療費や学校給食費の無料化と核兵器」です。

■その中で、ヒットした行動提起が「外へ外へ」です。どこへでも出掛け話をひろげます。通勤途中で運送屋へ飛び込んで署名を60人分集めたり、飲み屋の常連客、葬儀屋やブティック、美容院、工事現場の労働者に訴えたり、競艇場の非正規の女性たちに組合への参加とあわせてよびかけたり、消防署、図書館、美術館、教会、お寺、JA、病院、役場、小中学校、保育園にも行きました。町長や市長が先頭に立つ自治体も生まれました。

対話の中で、国連やオーストリア、マーシャル政府などの動きを知らせると、視野が地球規模に一気にひろがります。「この動きを後押しする署名だ」と言えば、相手は即答です。それなら職場で署名を回覧しましょう」「私のお店においていいわよ！集めとくわ」です。

「戦争立法」のチラシがほしいと逆にリクエストされたり、地域の貧困問題の話し合いになるなど、あらゆる運動とつながってきました。

■私たちが核兵器廃絶運動で重視していることは、2つあります。

#### ①行動する人を広げること、とりわけ若い世代です。

世界の動きや被爆の実相をじかに知ることは、とても重要です。私たちがそれを実感する場は、8月、広島・長崎で開かれる原水爆禁止世界大会です。世界大会やNY行動に、とくに若い世代を送る方針を持ち、NYには、子どもつれて、など、270人の会員がやってきます。

世界大会で「変えられる」展望をつかみ、そのカギが草の根の運動であること、がんばる人たちが日本にも世界にもたくさんいて、自分自身にも力があると実感することは、「活動家へのステップ」です。

被爆70年の今年は、世界大会に2000人の新婦人の参加目標を掲げました。新幹線を借り切って「ピース号」と名づけて参加する県もあります。

②2つ目は、核兵器廃絶と戦争する国づくり反対を一体にとりくむことです。被爆国でありながら、日本政府は、アメリカの「核の傘」に従属し、核兵器全面禁止の流れの足を引っばっています。その大本は日米軍事同盟です。

明日、安倍首相はワシントンにきます。日本をアメリカの世界戦略にいつそう組み込む日米軍事ガイドラインを改定し、自衛隊をいつでも地球のどこにでも派兵し、憲法も安保もふっとばす、過去に例の

ないことを決めようとしています。

■でも、そうはさせません。安倍政権は大きな抵抗をうけています。

沖縄では「新基地 NO」で保守も革新も経済界も心一つにたたかい、知事選でも総選挙でも圧勝しています。全国で戦争立法制定反対の行動がまき起こっています。女性たちは赤いものを身につけるレッドアクションを国会前や地域でひろげています。世論調査では、沖縄新基地も戦争立法も反対が多数です。

国民の声を聞かず、異論を許さず、侵略戦争も性奴隷の事実も否定する暴走に、「安倍政権ノックアウト」の1点で、あらゆる運動が結集する集会も生まれています。

■核兵器のない世界の実現は、新しい世界を開きます。

「安全保障」の名に下に維持されてきた核兵器は、人道上が許されないと突きつけられた瞬間に廃絶へと向かわざるを得ません。これは、一発の原子爆弾によって、人も家も町も、木の葉のように焼かれ、吹きとばされた、今も苦しみ続けている被爆者のみなさんから、教わってきたことです。

新婦人の先輩である被爆者の久保美津子さんは言いました。

「アメリカが憎かった。しかし新婦人で、私は変わった。憎しみは連鎖し、続く。被爆者の思いに本当に応えるためには、戦争はぜったいだめ、核兵器をなくそうと運動することだと、思うようになった。これが私の誇りです」

行動するのは今です。みなさん、力をあわせましょう。